

園内に咲く四季折々の花や色とりどりの実、季節を告げる生きものなどの自然の情報を、季節をおつてお届けします。今回は**晩秋の植物園**です。晩秋の寒い中でも植物(生き物)はたくましく生きています。その一コマをどうぞ。尚、バックナンバーは(公財)仙台市公園緑地協会ホームページ「杜のひろば」よりダウンロードできます。



アオキ【青木】(若い果実)  
実は、この後赤く熟して翌年の4月頃まで残る。雌雄異株。



イイギリ【飯桐】(実) 赤く熟した実は落葉後も初冬まで残っていて目立つ。雌雄異株。



カラタチ【枳殻】(実) (キコク) 果実は球形で、直径約3センチと小さい。黄色に熟す。実は食用にはならない。



サザンカ【山茶花】 品種花：10月下~12月 園内では売札所周辺の生垣のサザンカが色鮮やかに開花する。



オヤマボクチ【雄山火口】(そう果) 花は秋に咲くが、気づかぬうちに終わってしまい、晩秋まで残るそう果は遠くからでも目立つ。



カシワ【柏】(枯葉と春を待つ冬芽) カシワの葉は、秋に落葉せず翌年まで残る。冬芽はふかふかの毛で覆われている。



タチギボウシ【立擬宝珠】(実) 果実は熟すと3裂し、中には沢山の黒い種子が入っている。



ヤーコン(和名:アンデスポテト) 一般に根菜類として栽培されているが、園内ではキク科の帰化植物との比較観察のために植栽している。



ルリギク(ストケシア)【瑠璃菊】(実と総苞片) 総苞片には棘状の鋸歯があり、実の時期の方が際立ち人目を惹く。花は瑠璃色。



ドイツズラン【独逸鈴蘭】(液果) 葉っぱが茶色に枯れてもオレンジ色の実は残っている。実は沢山付く年と付かない年あり。



コアジサイ【小紫陽花】(蒴果) 花はすべて両性花で装飾花はない。黄色に色づく蒴果と葉も、晩秋まで残り美しい。



ヤブラン【藪欄】(実) 花後は忘れ去られることが多いが、秋から晩秋までツヤツヤした黒い実をつけている。



ワレモコウ【我木香】 花卉がないので実と勘違いされることが多い。種ができるころは茶色に変色する。



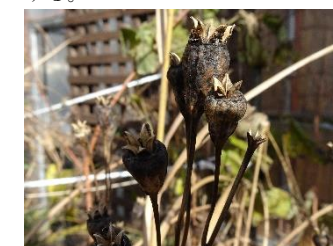
ツバキ【艶蒔】 品種名：竜頭 野生のツバキよりも遅く開花するので、晩秋まで見られる。



タマブキ【珠露・玉露】 花の季節はクルリと巻いた花柱、実の時期は純白の冠毛、季節毎に楽しめる。



スギゴケ【杉苔】 杉の苗にそっくりの苔。園内には他にも多くの苔が生えていてそれぞれ人気がある。



キキョウ【桔梗】(蒴果) 蒴果は面白い形をしている。中には、ゴマに似た沢山の黒い種子が入っている。



松の雪吊り 雪の重みで松の枝が折れないように(美観目的も含む)、毎年晩秋になると雪吊りを行う。園内の冬の風物詩。



ニガクリタケ【苦栗茸】 広葉樹などの切り株に束生する、淡黄色～鮮黄色のキノコ。初冬まで見ることができる。毒がある。



ヤマガラ【山雀】 夏場はほとんど姿を見せず、カヤやエゴノキの実る頃から翌春まで観察することができる。餌台に来た姿が可愛い。